



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

スーダン・イスラエル：ハルツーム近郊の工場火災をめぐる報道

主席研究員 中島 勇

10月23日、スーダンのハルツーム南部にある武器工場で、爆発があり、その後大規模な火災になった。報道では4人が死亡し、周辺住民が負傷した。当初、爆発原因は不明とされた。兵士が周辺道路を封鎖して消火活動を行い、火災は約1時間半後に鎮火した。翌24日、スーダンのウスマーン情報相は、23日夜の工場爆発について、イスラエル軍4機による攻撃だったと非難した。同発言あるいは工場の爆発について、イスラエル政府は公式なコメントをしていない。

イスラエル政府は沈黙しているが、イスラエルや英国のメディアは、工場爆発は、イスラエル軍機の空爆によるものだとの憶測を報道している。イスラエル側では、ハルツームまでの距離（1180マイル）は、イスラエルからイランの核施設までの距離より200マイル長いなどと、イラン空爆と対比させた報道もあるようだ。

今回の工場火災が、イスラエル軍の攻撃かどうかは別にして、イスラエル軍がスーダン国内で、軍事行動を行ったとする憶測報道は今回が初めてではない。中東調査会のデータベースでは、イスラエルがスーダンからパレスチナへ武器が密輸入されていると主張したのは、2008年5月である。イスラエルは、スーダン～紅海～シナイ半島を経て、ガザにイラン製ミサイルが運ばれたとした。その後、スーダン国内でイスラエル軍が、パレスチナへの武器密輸を阻止するために、軍事行動を行ったのではないかとする憶測報道がなされたのは、以下の6回である。6回の事件について、イスラエルは沈黙している。

- ・2009年3月、イスラエル軍機がスーダン国内で武器を積んだトラックを空爆したと報道された。
- ・2009年4月、スーダン沖で、武器を積んだイランの船舶が攻撃され沈没した。同船は武器をスーダンで降ろし、シナイ半島経由でガザに運ぶ予定だった。
- ・2011年4月、ポート・スーダン港付近で、車がイスラエル軍機の本ミサイル攻撃を受け、3人が死亡。ヘリによる攻撃説もある。
- ・2011年12月 スーダン国内で武器を運ぶ車が空爆された。

- ・ 2012 年 5 月 ポート・スーダン港付近で、ミサイル攻撃で一人が死亡。
- ・ 2012 年 10 月 イスラエル軍機がハルツーム近郊の工場を空爆。

評価

イスラエルは、シナイ半島経由でガザに武器が密輸されている警戒している。最近は、リビアからの武器流入が懸念されているが、その前は、スーダンからの武器ルートが取りざたされた。こうした背景を考慮すると、イスラエル軍・情報機関がスーダン国内で何らかの活動をしている可能性はゼロではない。

しかし、10 月 23 日にイスラエル軍が工場空爆を実行したとしても、そのことをイラン空爆と重ねて議論をすることは無意味だろう。イスラエル軍はすでにチュニスなどへの遠距離作戦の実績はある。チュニジアとスーダンは、イスラエルからは公海上（地中海、紅海）を飛行して行ける。しかし、イスラエル軍機が、公海上を飛んでイランへ行くのは非現実的である。イスラエルは、空母を持たないし、領空侵犯を容認する国はない。イスラエルがイランを空爆するなら、他国の領空を侵犯するしかない。イスラエルがイランを攻撃する場合に生じる最大の政治問題である他国の領空侵犯は、スーダン空爆にはない。

他方、イスラエルが、現実的にスーダンと関係している問題は不法移民である。今年 5 月に、イスラエルはアフリカ系不法難民（推定で 6 万人）の国外退去を開始した。この際、アフリカ系不法移民の 85%は、エリトリア、スーダン系だとされた。イスラエルとスーダンの政治的な対立とは別の次元で、あるいはそれとは無関係に、イスラエルでの働き口を求めて、多数のスーダン人不法移民がエジプト・イスラエル国境を越えている。